

PROJECT



自然とのふれあいの増進

本県は変化に富んだ豊かな自然に恵まれています。今日、都市化が進展する中で、ふるさとを構成する重要な要素である身近な緑や小川等の減少に伴い、自然とふれあう機会が少なくなってきています。

また、人間との関わりの中で形成・維持されてきた、身近な動植物の生息・生育環境である田畑・里山・里地等の自然や、鎮守の森・社寺林等の保全が求められています。

自然公園

- 県民がいつでも身近な自然に親しむことができるよう、自然公園内における施設整備を進めます。
- 海の生物とのふれあいの場を整備するとともに、特に海中公園地区においては、ふれあい拠点の整備を進めます。

小動物とふれあえる空間

- 身近な自然とのふれあいを高めるため、自然観察の森やホタル・メダカ等の小動物とふれあえる空間の整備を進めます。

多様性に富む森林

- 自然体験や環境学習の場として利用することができるよう、原生的な森林の保全、広葉樹林等多様な森林の整備を進めます。
- 生活空間にあるシンボリックな樹木や森を保全し、身近な自然とふれあえる場の確保に努めます。

里地自然

- 二次的自然が多く、農林水産等さまざまな人間活動を通して自然と人間が関わりを持ち、また、ふるさとの風景の原型でもある里地自然について、生物の生育・生息環境の保全や景観への配慮を進めます。
- 過疎化や高齢化が進行している地域を中心に、森林、農地等の有する環境保全能力の維持を図り、雑木林等の二次的自然を保全します。
また、里地の身近な野鳥や野草等と親しめるよう、広場や遊歩道、自転車道等の整備を進めます。